

第7回 稲荷山公園の整備に関する専門家委員会議事概要

日 時：令和7年6月30日（月） 18時30分～20時00分

会 場：練馬区役所地下多目的会議室

出席者：委員（名簿順）

小堀委員長、一ノ瀬委員、大澤（啓）委員、横田委員、大沢（昌）委員

事務局

土木部長、道路公園課長、みどり推進課長（その他関係部課）

次第1：開会

次第2：前回の委員会について

＜事務局＞

- ・令和7年3月12日（水）開催の第6回稲荷山公園の整備に関する専門家委員会の議事概要【案】について、意見はあるか。

（特になし）

- ・本議事概要にて、練馬区のホームページへ掲載する。

次第3：議題

委員長

- ・前回は防災の観点から稲荷山公園の整備内容についてご議論いただいた。今回も、様々な視点からご議論いただきたい。

（事務局より資料1の説明）

委員長

- ・まず、右岸の施設（案）について、ご意見を頂きたい。

【資料1：右岸の施設（案）について】

委員

- ・水田や親水空間と、河川の水位との関係性についてどのように考えているか。常時水位やハイウォーターレベル、増水時に、河川水が水田や親水空間に流入するのか。水田や親水空間に河川水を入れて、防災機能を持たせる予定はないか。
- ・畑の位置の妥当性を検証すべきである。現計画位置は、北斜面の下であるため、日照不足となる可能性がある。

<事務局>

- ・水田と親水空間の地盤の高さは、河川の水位等を考慮して今後精査する。基本的に現地盤より低いことを想定しているが、増水時の水没等について、利用面を踏まえ検討を行う。
- ・畠の位置は今後検討が必要であると認識している。公園整備のテーマでもある「武蔵野の面影」に基づき、昔の農の風景とマッチングできるエリアとしてイメージしている。

委員

- ・水田は、洪水や雨水が入り、調整機能を持つ方を正しい姿とする可能性があるので、この点について調査検討を行うべきである。

<事務局>

- ・今後精査する。

委員

- ・大江戸線の新駅 ((仮称) 大泉町駅) から稻荷山公園へのアクセスルートについて、白子川沿いの散策路を計画する等、心地よく歩きたくなるようなルートを検討して欲しい。
- ・右岸の展望台の位置について、計画位置では水田が見えにくい可能性があるため、畠、水田、対岸の広場等を見渡せる、地下施設付近が望ましいのではないか。
- ・全体を見渡し、ランドスケープを把握できるような場として、清水山の森周辺エリアにも展望台を設ける事を検討して欲しい。
- ・不動橋と下中里橋は、白子川と両岸の全体を見渡せる重要な視点場として位置づけて欲しい。

<事務局>

- ・新駅から稻荷山公園へのアクセスルートについて、現状の白子川沿いには河川の管理用通路があるが、狭く歩きにくい箇所もあるため、新しい動線計画と合わせて検討したい。現在、新駅付近では、駅周辺まちづくりとして地区計画の検討を進めている。
- ・展望台の位置や高さ、視点場の位置づけ等は、ご意見を踏まえ引き続き検討を進めたい。

委員

- ・公園内の施設に生物多様性センターのような機能が位置づけられると良いのではないか。
- ・左岸と右岸の高低差や、公園の規模を考慮すると、右岸側にも大きな規模は必要ないが、駐車場は必要となるのではないか。

<事務局>

- ・施設は引き続き検討したい。

- ・右岸は既存の樹林を残す方向で計画しているため、どの程度平坦地の面積が確保できるか精査した上で、駐車場の配置について検討したい。

委員

- ・計画地南側の園路について、公園の入口と入口を繋ぐような動線は限定的であるため、屋敷林等の景観を縦断的かつ一体的に楽しめるような園路設定を検討しても良いのではないか。
- ・清水山の森の湧水を公園内の畠付近まで導水し、せせらぎを創出する等、環境利用を踏まえた多面的な活用方法を検討して欲しい。

<事務局>

- ・計画地南側の景観を意識した園路設定の詳細については、別途委員との打合せ等を実施し、検討を進めたい。
- ・湧水の活用方法については、地形の高さ等も踏まえ、引き続き活用方法を検討する。

委員長

- ・次に、左岸の施設（案）について、ご意見を頂きたい。

【資料1：左岸の施設（案）について】

委員

- ・駐車場の位置の妥当性について、近隣に小中学校があるため、隣接する区道の交通量を増やすことは望ましくない。都道に隣接する箇所に駐車場を設ける方が良い可能性がある。まずは隣接する区道がスクールゾーンであるかどうかを確認すべきである。
- ・駐車場の台数については、将来の公園利用形態やモビリティハブとしての地域内の位置づけ等を議論したうえで検討すべきである。
- ・資料10ページ「各平面イメージ図の特徴」について、「増水時に流入する河川水を視認でき防災意識を高める効果」については、誤解を招く可能性があるため、文言の調整を図る必要がある。水害時には公園から避難することが望ましいため、災害時の利用形態については文言を含め調整が必要である。

<事務局>

- ・駐車場の位置について、付近の道路は小中学校の通学路に指定されているため、安全対策を含め検討したい。また、エントランス空間等、様々な機能の配置が想定されるため、まちづくりの視点からも、引き続き委員にご意見を頂きたい。
- ・資料10ページ「各平面イメージ図の特徴」の文言は、誤ったメッセージを発信しないように書きぶり等を改めたい。

委員

- ・稲荷山公園内の散策路を、スクールゾーンや通学路として利用する可能性も視野に入れ、機能分担について考慮すると良い。

委員

- ・左岸の駐車場位置について、道路からのアクセスが重要であるため、生物多様性を重視する案における遊具エリアの近くに配置する方が、アクセスしやすく交通整理もしやすいのではないか。
- ・別荘橋付近は雨水が集まる場所であるため、駐車場の地下や植栽基盤に貯水機能を設ける等、雨水対策および活用を検討しても良いのではないか。
- ・調節池等を設ける場合、掘削時に湧水が表出する可能性があるため、湧水が発生した場合の活用についても検討すべきである。

<事務局>

- ・駐車場の在り方については、施設配置の整理と合わせて検討したい。
- ・湧水等の水源をどのように活用するかは、引き続き検討を進めたい。

委員

- ・駐車場内に植栽を配置する等、景観的な配慮や雨水浸透、日陰の提供、公園全体の連続性を意識したほうが良い。

<事務局>

- ・景観を考慮し、イメージが伝わりやすい計画案を検討する。

委員

- ・地下調節池の上部構造は、人工地盤となる理解で良いか。構造上の問題が無いか確認が必要である。

<事務局>

- ・左岸の地上部は同一平面とし、地下調節地はコンクリート構造の地下箱式を想定している。練馬区内の類似事例を意識している。また、その他の方法についても技術的に可能なものががあれば、アドバイスをいただきながら検討を進めたい。

【資料1：その他】

委員

- ・稻荷山図書館は「森の図書館」のように、公園と連動させる機能も含め検討すべきである。

<事務局>

- ・現在の稻荷山図書館は、昆虫に特化した情報発信施設でもある。周辺施設との機能分担や連携を踏まえ、新しい形を検討したい。

<事務局>

- ・本日頂いた意見等を踏まえ、特に左岸について2案を1つにまとめていく方向で精査を進めたい。

次第4：報告事項

委員長

- ・本日は、事務局より報告が3件用意されている。事務局より一括して説明を行う。

(事務局より資料2・3・4の説明)

委員

- ・地下施設について、文化的価値の検証に加え、第二次世界大戦中の施設が現在まで残存している「土木技術的価値」や「戦争遺構」としての観点からも検証すべきである。

<事務局>

- ・構造的な特徴や施設としての意義等について、関係部局と連携しつつ、引き続き調査を進めたい。

次第5：その他

<事務局>

- ・次回以降の日程調整は改めて行う。

次第6：閉会

<事務局>

- ・「第7回 稲荷山公園の整備に関する専門家委員会」を終了する。